厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患克服研究事業）
総括研究報告書

難治性血管炎に関する調査研究

研究代表者　槇野　博史
岡山大学大学院医歯学総合研究科　腎・免疫・内分泌代謝内科学　教授

研究要旨

血管炎の病因・病態の究明は依然として進展しておらず，しばしば重要臓器の障害をもたらすが有効な治療法は確立されていない．本研究班は，中小型血管炎分科会・大型血管炎分科会・病理基礎分科会・国際研究協力分科会の4つの分科会で構成して研究を行った．

中小型血管炎分科会では，2つの前向きコホート研究を行った．また，すでに終了したRemIT-JAV研究の解析からわが国のANCA関連血管炎患者の特徴と明らかにした．また好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の診断における問題点も明らかにし，臨床調査個人票の改訂にも取り組んだ．最終的にこれまでの研究成果を基にANCA関連血管炎の診療ガイドラインの改訂を行った．

大型血管炎分科会では，高安動脈炎の臨床調査個人票を用いた疫学的な検討を行い大型血管炎の新規症例を対象とした前向きコホート研究を開始した．高安動脈炎については遺伝学的検討に加え，評価方法・新規治療に関する検討を行った．さらに新たな大型血管炎の動物モデルを作成した．

基礎・病理分科会では，血管炎に関する感受性遺伝子異常，免疫異常による血管炎発症，血管炎の確立と組織内微小環境の変化・破綻，動脈壁の破壊と臨床症状の出現について検討を行った．全面改訂された「皮膚症状からみた血管炎診断の手引き」と進行中の「血管炎症例の病理所見と臨床所見のレポジトリ」は，難治性血管炎の臨床に役立つことが期待される．

国際研究協力分科会では原発性全身性血管炎の分類・診断基準作成のための研究，血漿交換療法に関する介入研究，リツキシマブの維持療法に関する介入研究など多くの国際共同研究へ参加するための体制を構築しわが国からも多くの施設が研究に参加することが可能となった．また国際的な比較研究からわが国の ANCA 関連血管炎患者の特徴も明らかにした．

研究分担者

有村義宏（杏林大学第一内科・教授），岡田保典（慶應義塾大学医学部病理学・教授）、種本和雄（川崎医科大学心臓血管外科・教授），藤元昭一（宮崎大学医学部医学科血液・血管先端医療学講座・教授），石津明洋（北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学・教授），土屋尚之（筑波大学医学医療系分子遺伝疫学・教授），長谷川均（愛媛大学大学院医学系研究科血液・免疫・感染症内科学・准教授），岩月啓氏（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学・教授），竹内勤（慶應義塾大学医学部リウマチ内科学・教授），礒部光章（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科循環制御内科学・教授），古森公浩（名古屋大学大学院医学系研究科機能構築医学専攻病態外科学講座血管外科学・教授），小室一成（東京大学大学院医学系研究科循環器内科学・教授），中村浩士（山口大学医学部地域医療推進学講座・准教授），針谷正祥（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科薬害監視学・教授），藤井隆夫（京都大学大学院医学研究科リウマチ性疾患制御学講座・准教授），和田隆志（金沢大学医薬保健研究域医学系血液情報統御学・教授），天野宏一（埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科・教授），髙崎芳成（順天堂大学医学部膠原病内科学講座・教授），山田秀裕（聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科学・教授），本間栄（東邦大学医学部内科学講座呼吸器内科学分野・教授），土橋浩章（香川大学医学部内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科・講師），伊藤聡（新潟県立リウマチセンターリウマチ科・副院長），小林茂人（順天堂大学医学部付属順天堂越谷病院内科学・教授），平橋淳一（東京大学医学部附属病院腎臓内分泌内科・助教），濱野慶朋（東京都健康長寿医療センター腎臓内科・腎臓内科部長），猪原登志子（京都大学医学部附属病院臨床研究総合センター早期臨床試験部・特定助教），佐田憲映（岡山大学病院腎臓・糖尿病・内分泌内科・講師）